

2022年2月1日

第60回 関西財界セミナー 開催概要

公益社団法人 関西経済連合会
一般社団法人 関西経済同友会

第60回関西財界セミナーの開催概要につきましては、下記の通りとなりましたので、ご案内申し上げます。当初、実開催予定でしたが、新型コロナウイルスの情勢を鑑み、オンライン開催となります。何卒ご了承くださいませよう、お願いいたします。

記

1. 基本認識

世界は今、さまざまなリスクに直面しています。なかでも気候変動問題は、エネルギー構造だけではなく、産業構造全体の転換点となる重大な要素を含んでいます。また、国際情勢におきましても、東アジアをはじめとする地政学的リスクの高まりが、企業活動に対して、大きな影響を与える時代となりました。

わが国では、新型コロナウイルス感染症をきっかけとして、デジタル技術の活用の遅れ、従来の雇用・人事制度による制約、中央集権・一極集中構造の弊害といった、コロナ前からの問題がより一層顕在化しました。

こうしたなか、関西発祥の「三方よし」の理念とも共鳴する、成長と分配の好循環に向けた「新しい資本主義」という方向性を掲げる岸田政権が誕生しました。

時代が「新しい」あり方を模索し、急速に変化していく状況において、企業に求められるのは、新たな展望を描き、リスクをチャンスへと変えていく戦略の構築と実行です。3年後に迫る大阪・関西万博は、関西が世界の先頭に立って、課題解決や持続的成長に向けた道筋を示す好機であります。万博のテーマである、一人ひとりの多様な価値観が尊重され、“いのち輝く未来社会”を実現するには、まさに今、具体的行動を起こすことが必要ではないでしょうか。

このような認識のもと、「関西を起点に反転へ～フロンティアに立つ覚悟～」をテーマに第60回セミナーを開催します。この激動する時代において、経営者が、そして関西が向き合うべきテーマについて6つの分科会を設け、皆さまと2日間の議論を尽くしたいと存じます。

2. 日 時 2022年2月8日(火)・9日(水)
3. 開催方法 オンライン(ZOOMにて開催)
4. テーマ 関西を起点に反転へ～フロンティアに立つ覚悟～
5. 主催 (公社)関西経済連合会、(一社)関西経済同友会
6. 協力 大阪商工会議所、京都商工会議所、神戸商工会議所
(公財)関西生産性本部、(一社)京都経済同友会、(一社)神戸経済同友会
7. 当日スケジュール(予定)

2/8 [第1日]	10:00～10:05	5分	開会
	10:05～10:15	10分	開会挨拶(古市代表幹事)
	10:15～10:30	15分	主催者問題提起(松本会長)
	10:30～11:40	70分 (準備含)	基調講演 岩井 克人 国際基督教大学 特別招聘教授 東京大学 名誉教授
	11:45～12:35	50分	昼 食
	12:40～17:00	260分	分科会討議(途中、休憩あり)
2/9 [第2日]	09:00～12:20	200分	分科会討議(途中、休憩あり)
	12:25～13:25	60分	昼 食
	13:30～14:10	40分	関西財界セミナー賞2022贈呈式
	14:20～15:20	60分	特別講演 野村 忠宏 柔道家
	15:30～16:00	30分	分科会議長報告
	16:00～16:10	10分	顧問団代表所感(尾崎会頭)
	16:10～16:20	10分	主催者声明・閉会挨拶(生駒代表幹事)
	16:30～16:50	20分	主催者代表記者会見

8. タイムテーブルと各分科会の概要

(敬称略)

2月8日(火)

◆全体会議 [10:00～11:40]

(1)開 会

(2)開会挨拶 古 市 健 (一社)関西経済同友会 代表幹事

(3)主催者問題提起 松 本 正 義 (公社)関西経済連合会 会長

(4)基調講演

講師：岩 井 克 人 国際基督教大学 特別招聘教授、東京大学 名誉教授

演題：「会社の新しい形を求めて

～なぜミルトン・フリードマンは会社についてすべて間違えていたのか～」

◆昼 食 [11:45～12:35]

◆分科会討議 [12:40～17:00 / 2月9日(水) 9:00～12:20 に続く]

第1分科会：大阪・関西万博～次世代に残すべきレガシー～

2025年「大阪・関西万博」では、コンセプトである「未来社会の実験場」の実現はもちろんのこと、万博を一過性の“お祭り”で終わらせず、その成果を着実に継承し、社会実装していくことが必要である。経済界をはじめとした万博に参画するすべてのプレイヤーが、万博の「レガシー」として、何を、どのように創出していかなければならないのか。これまで世界各地で開催された万博の成果も踏まえ、万博の準備が本格化するこのタイミングで議論する。

セッション構成：①世界の万博が残してきたレガシー
②「大阪・関西万博」を通して描く未来図
③残すべきレガシーと具現化の方法

議 長	角 和 夫	阪急電鉄(株) 代表取締役会長
	村 尾 和 俊	西日本電信電話(株) 相談役
問題提起者	佐 野 真由子	京都大学大学院 教育学研究科教授
	澤 田 裕 二	UG WORK 合同会社 代表、 2025年日本国際博覧会協会 テーマ事業ディレクター
	魚 路 学	(株)三菱総合研究所 万博推進室 兼 スマート・リージョン本部 国土・地域政策グループ 主任研究員

備考：関経連担当

第2分科会：グローバルリスクへの適応力～持続的成長・発展に向けた企業変革～

企業は、人間活動によって発生したグローバルリスク（パンデミック・経済安全保障・気候変動・環境問題・人権問題など）に直面している。これらリスクは複雑に絡み合い増幅し、今後ますます、企業は想定外の事態や影響に適応を迫られる。持続的成長・発展の観点では、社会的責任を果たしてこそ企業価値の創造につながる。リスクの原因と起こり得る影響を想定し、リスクをチャンスと捉え、いかに新たな事業に転換させるか、これからの経営のあり方を議論する。

セッション構成：①コロナが企業経営にもたらしたもの
②さまざまなグローバルリスクへの対応
③企業のサステナビリティ課題への対応
～未来の社会価値創造と企業成長の両立～

議長	鈴木 善久	伊藤忠商事(株) 取締役 副会長
	高橋 孝一	ダイキン工業(株) 専務執行役員
問題提起者	宮部 義幸	パナソニック(株) 専務執行役員
	星野 俊也	大阪大学大学院 国際公共政策研究科教授、 前・国際連合日本政府代表部大使・次席常駐代表
	坂野 俊哉	PwC Japan グループ サステナビリティ・センター・オブ・エクセレンス エグゼクティブリード

備考：同友会担当

第3分科会：カーボンニュートラルに向けたエネルギー政策、 および関西が先駆けるグリーン技術がもたらす未来社会を考える

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、企業は戦略を見直し、政府には企業の取組みを後押しする政策を求めていく必要がある。本分科会では、脱炭素化に向けた世界の潮流やエネルギー安全保障、企業の脱炭素を支えるファイナンスなどを踏まえたエネルギー政策のあり方、世界の脱炭素化に貢献する水素を中心とした関西が先駆けるグリーン技術がもたらす未来社会像などについて議論する。

セッション構成：①2050年カーボンニュートラルに向けた環境・エネルギー政策のあり方
②今求められる企業の脱炭素を支えるファイナンスのあり方
③関西から花開く未来を切り拓くイノベーション～世界全体のカーボンニュートラルを目指して～

議長	古川 実	日立造船(株) 顧問
	間島 寛	岩谷産業(株) 代表取締役 社長執行役員
問題提起者	石川 和男	政策アナリスト、社会保障経済研究所代表、 経済産業省大臣官房臨時専門アドバイザー
	秋元 圭吾	(公財)地球環境産業技術研究機構 システム研究グループ グループリーダー・主席研究員
	庵原 一水	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 執行役員

備考：関経連担当

第4分科会：ヒトを惹きつける舞台・関西～D&I先進地化に向けて、今なすべきことは～

労働力人口の減少するなか、競争力の源泉となる優秀な人材を確保する重要性がさらに高まっている。本分科会では、関西が多様なヒトを惹きつけるダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の先進地となるために必要な方策、特に、女性や外国人、あるいは属性にとらわれず多様な価値観をもつ人材が、企業を舞台にその能力を最大限に発揮できる環境整備について議論する。

セッション構成：①企業におけるD&Iの取り組みの変遷と現状
②女性の活躍推進に向けた取り組みについて
③外国人材の活躍推進に向けた取り組みについて、
その先のD&Iの先進地化に向けて今なすべきことは

議長	白井 正勝	東洋紡(株) 取締役執行役員
	酒井 真理	ピーチコーポレーション(株) 代表取締役社長
問題提起者	長町 理恵子	追手門学院大学 経済学部経済学科准教授
	矢島 洋子	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 執行役員 主席研究員
	田村 太郎	(一財)ダイバーシティ研究所 代表理事

備考：関経連担当

第5分科会：企業と従業員のサステナブル・エンゲージメント

企業の創造性や生産性を向上させるため、やりがい・働きがいや多様な働き方といった従業員との関わり方への関心が高まっている。日本の雇用・労働環境の課題が指摘されるなか、従来の雇用・人事制度やマネジメント制度の見直しを図る動きも増え、コロナ禍によりその傾向は強まっている。本分科会では、こうした企業と従業員を取り巻く現状を踏まえ、企業と従業員がともにより豊かに、より輝くためにできることについて議論する。

セッション構成：①日本企業と日本型雇用慣行の持続可能性
②今日の従業員の価値観と働き方の変化
③これからの企業と従業員の関係

議長	武智 順子	(弁)御堂筋法律事務所 パートナー・弁護士
	谷口 宗哉	(株)三菱UFJ銀行 代表取締役副頭取執行役員(西日本駐在)
問題提起者	若林 直樹	京都大学経営管理大学院 教授
	矢野 和男	(株)日立製作所 フェロー、 (株)ハピネスプラネット 代表取締役 CEO
	高倉 千春	ロート製薬(株) 取締役 人財・WellBeing 経営推進本部 E.Designer

備考：同友会担当

第6分科会：「安いニッポン」*からの脱却～企業と経営者がなすべきこと～

日本は安くなった。過去20年以上、生産性は上がらず低成長が続くなかで、物価も給与も低迷。訪日外国人は日本の「安さ」に感激し、食品や原材料は諸外国に買い負け、海外資本は土地・人材・企業を買い叩く。「良いものをより安く」を追求するなかで生まれた歪みが、国際競争力の低下や中間層の剥落、女性・子どもの貧困などの構造的課題として顕在化した。先進国としての地位が危うい今、企業そして経営者は何をなすべきか議論する。

(※日本経済新聞特集『安いニッポン』をどう生きるかより)

- セッション構成：①何が、なぜ「安い」のか？
②「安いニッポン」から脱却するために必要な突破口とは？
③「安いニッポン」から脱却するために、企業・経営者は何をなすべきか？

議長	フォーリー 淳子	大同門(株) 代表取締役社長
	角元 敬治	(株)三井住友銀行 代表取締役副頭取執行役員
問題提起者	藻谷 浩介	(株)日本総合研究所 主席研究員
	フランツ・ヴァルデンベルガー	ドイツ日本研究所 所長
	別所 宏恭	レッドフォックス(株) 代表取締役社長

備考：同友会担当

2月9日(水)

◆分科会討議 [9:00～12:20 / 2月8日(火)から継続]

◆昼食 [12:25～13:25]

◆全体会議 [13:30～16:20]

(1) 関西財界セミナー賞2022贈呈式

(2) 特別講演 講師：野村 忠宏 柔道家
演題：「折れない心」

(3) 分科会議長報告

(4) 顧問団代表所感 尾崎 裕 大阪商工会議所 会頭

(5) 主催者声明・閉会挨拶 生駒 京子 (一社)関西経済同友会 代表幹事

以上